

雲雀丘学園中・高等学校における慶應義塾大学教授・医学部長 末松 誠所長の特別講義
(平成 24 年 7 月 18 日)

平成 24 年 7 月 18 日、雲雀丘学園中・高等学校の高 1・2 年生（約 550 名）を対象に、慶應義塾大学教授・医学部長である末松 誠所長が「酸素と生命：ヒトはなぜ酸素がないと生きられないのか？—高校の生物・化学で理解できる医学—」と題して、特別講義を行いました。これは理系の大学進学率が伸びつつある雲雀丘学園と、生命科学研究分野の奨励助成を行っている当財団とのコラボ活動として行われたものです。

末松所長は医学部に入る前に天文学者を志したとのことで、生徒たちに対する「宇宙に存在する最も多いガス（星間分子）は水素だが、2 番目は何か」（一酸化炭素が答えです）という質問から始まって、高校の生物で習う解糖系やミトコンドリア電子伝達系などで酸素を使ってエネルギーを生み出す仕組みや一酸化炭素が結合する受容体の機能などを、動画を使って巧みに講義されました。使われた資料は慶應大医学部の学生向けだそうです。時折、生徒を指名して質問と解説をしながら進めていくものでした。講義の後、生徒からの「酸素がなくても生きられる生物はいますか？」や保護者からの「過呼吸という現象があるが、酸素が毒になっているのですか？」などの質問があり、いずれに対しても「いい質問です。」から始まって丁寧に分かりやすく回答されていました。

これから進路を決めていく生徒を中心に、理系（特に医学）を志してほしいとの目的で実施された講義でしたが、「最近の医学・医療は、化学、工学などの分野と連携しなければ成り立たないので、医学部に進学しなかったからと言って医学・医療に関われないわけではない。自らに枠をはめて、将来の可能性の芽を摘むことのないように。」という言葉が生徒のところに響いたことを期待しています。

